

三翠化学会

(題字は稲川先生)

第 64 号

平成 27 年 9 月 10 日 発行
三翠化学会
津市栗真町屋町 1 5 7 7
三重大学大学院生物資源学研究所内
電話 / (059) 232 - 1211
振替 / 00890 - 1 - 59345
印刷 / 株式会社 あるむ
TEL (052) 332-0861 大 8 長谷川 正一

平成二七年度三翠化学会 同窓会のご案内

平成二七年一〇月三二日(金) 午前一時受付開始

於三重大学生物資源学部大会議室

※今回は、多数の先生方に参加していただきます

初秋の候、会員の皆様におかれましては、お元気で御活躍のこととお喜び申し上げます。日頃は三翠化学会の運営にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。また、昨年の機関紙「三翠化学」発行の際には、三翠化学会の会計逼迫打開のための賛助金をお願いいたしましたところ、多数の方から暖かいご支援いただき、役員一同心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

さて、長年親会三翠化学会の総会に合わせ、隔年で三翠化学会の総会も開催してきましたが、平成二五年より同窓会の活性化を計る目的で、三翠化学会が開催されない年も単独で三翠化学会の総会・懇親会を開催していくことを決めました。平成二五年の前々回は、伊勢神宮のご遷宮に合わせ、同窓会を開催し九〇名に及ぶ大勢の皆様にお集まりいただき、また、その半数の方が志摩の浜島で一泊、宴席を囲み、翌日神宮に参詣するという盛大な会を持つことが出来ました。

今年度は、恩師の先生方に多数ご参加いただき、先生方のお力をお借りして、同窓生により多く集まっています。ただ、同窓生に多く集まっていたことを前提に、前もって比較的最近に退官された先生方、及び学内の先生方に参加いただくことをお願いしました。また、嶋林先生には「三重大学における農芸化学の歩み」と題して講演をお願いしています。

ところで、生物資源学部では、今般学部の改組が行われ、十余年に渡り二つの学科に分断されて来た旧農芸化学系の研究室が、生物生命科学部に統合されました。ようやく学部の卒業生(旧農芸化学系の研究室の卒業生)が、三翠化学会に入会出来る体制が出来ると聞いています。

近い将来新しい卒業生が三翠化学会に入会する日が必ず来ます。それに合わせて三翠化学会も一歩一歩活性化して行きたいと念じています。最後に申しあげますが、別紙のように今年もまた賛助金をお願いすることになりました。大変心苦しく恐縮の極みですが、会員各位の暖かいご支援をお願い申し上げます。

会員が一人でも多く同窓会に足を運んでいただけることこそが活性化の第一歩と考えています。どうか会員各位の同窓会への参加、ご協力を切にお願い申し上げます。

梅川幹事司会の元、冒頭に、賛助金依頼に対する会員諸氏よりの暖かい多額の振り込みについて、会長より謝意が述べられた。ついで木村氏を議長に選出し議事が進められた。事業報告(勝崎幹事)、会計報告(三島幹事)は、昨年二四年度分が済んでいるため二五年度分のみ詳しい説明が行われ、監査報告が今井監事によって行われた。ついで平成二六・二七年度役員人事が諮られ、新会長に杉崎護氏、副会長に木村幸信氏、勝崎裕隆氏を選出し、次いで理事を選出した。また実務を担当する幹事若干名を委嘱した。その後平成二六・二七年度事業計画案、予算案が説明された。以上の全議題は満場一致で可決された。

議事終了後杉崎新会長より挨拶があり、本会の活性化に向けての抱負が述べられた。三翠化学会総会終了のあと同三重県支部総会が開催され、小畑前支部長(慣例により本会会長が兼任)より、親同窓会三翠支部とのお付き合いについて説明され、梅川幹事(親同窓会幹事(本部))からより詳しい状況説明がなされた。

宮に参拝する大きなイベントが行われたため、九十余名の出席で盛況であった。今年度は親同窓会と同日開催のため特段の行事は組まれないが、吉田関東支部長、古橋関西支部長も出席頂き、実のある審議が行われた。

梅川幹事司会の元、冒頭に、賛助金依頼に対する会員諸氏よりの暖かい多額の振り込みについて、会長より謝意が述べられた。ついで木村氏を議長に選出し議事が進められた。事業報告(勝崎幹事)、会計報告(三島幹事)は、昨年二四年度分が済んでいるため二五年度分のみ詳しい説明が行われ、監査報告が今井監事によって行われた。ついで平成二六・二七年度役員人事が諮られ、新会長に杉崎護氏、副会長に木村幸信氏、勝崎裕隆氏を選出し、次いで理事を選出した。また実務を担当する幹事若干名を委嘱した。その後平成二六・二七年度事業計画案、予算案が説明された。以上の全議題は満場一致で可決された。



杉崎 護 氏

平成二六年度総会報告

新会長に杉崎 護氏(大16回) 選出
副会長に木村幸信氏(大25回)、勝崎裕隆氏(大36回)

全ての審議終了後場所を大講義室に移して親同窓会三重県支部総会、親同窓会総会が行われた。その後生協第一食堂において全体での懇親会が行われ、本会メンバーは互いに旧交を温め、同期の他の同窓会員と交流が図られた。

(小畑仁 大15回)



議事終了後杉崎新会長より挨拶があり、本会の活性化に向けての抱負が述べられた。

賛助金に協力の御礼とあらざるお願い

昨年来、三翠化学会の会計逼迫打開のため賛助金をお願い致しましたところ、一七三名の方から総額百万円を超える(三重大グッツ代、払い込み手数料を引いて八〇万円)暖かいご支援を頂き、役員一同心より御礼申し上げます。ここに芳名を掲載させて頂きま

す。まことにありがとうございます。お蔭様で、伝統ある機関紙「三翠化学」をしばらく続けることができ、役員一同ひと安心して

聞くと、昨年より、平成二二年の学科改組で大きく分かれた旧農芸化学が大部分ひとつのグループとなるよう再度改組された模様です。これは三翠化学会の母体と重なり、もう一度三翠化学会に新入会員を迎え入れることが視野に入ってきたように思われます。幸い、本会会員でもある梅川教授が研究科長・学部長に就任されたこともあり、同窓会の再編にも希望がもてると思っております。新しい学科の学生さん

に三翠化学会の存在を知って頂き、卒業後に本会に入会頂くためには、在学中に本会とのつながりを強めて頂くことが大切かと思えます。具体的には、出費後役員会等で知恵を出して頂くとして、当面資金を確保していく必要があります。

一 昨年の総会において、自分の機関紙「三翠化学」発行のたびに賛助金をお願いすることが決定されていることから、役員会でご検討いただいた結果、昨年に引きつづきしばらくの間賛助金をお願いし、近い将来

の本案再構築に対処したいと考えるに至りました。期間は、新入会員の納入金で考えております。会員の皆様方には、出費多額の折大変恐縮ですが、引き続きのご協力を別紙の要領でお願い致したく、伏してお願ひ申し上げます。

記

日時 平成 27 年 10 月 31 日(土) 11 時より受付開始
総会・講演: 11:30 ~ 13:00
懇親会: 13:00 ~ 15:30
学内ツアー(希望者のみ): 15:30 ~

会場 総会・講演 三重大学生物資源学部大会議室
懇親会 学内第一生協

講演 「三重大学における農芸化学の歩み」 講師 嶋林幸英先生
会費 5,000 円
参加いただく予定の先生方
退官された先生方 小畑 仁、田口 寛、久松 眞、今井邦雄の諸先生
学内の先生方 栗冠和郎、奥村克純、田中晶善、木村哲哉の諸先生
(なお、長老の先生方も今回のご案内で参加いただけるものと思っています。)

幹事連絡先 杉崎 護(大16回) TEL 090-1624-6160
m-sugisaki@arrow.ocn.ne.jp
木村幸信(大25回) TEL 090-4859-3554
y.kimura3no0@gmail.com
勝崎裕隆(大36回) katsuzak@bio.mie-u.ac.jp
出欠の締め切り 返信用はがきで9月末日までにお願いします。

341716 三翠化学会
理事 小畑 仁 にお振込
み下さい。なお、この口座
の名義人が「会長 小畑仁」
から「理事 小畑仁」に
変更になっていますので、ご
注意下さい。

いた方には、新たな三重大
グッツをお届けする予定に
しております。何にするか
鋭意検討中ですので、しば
らくお待ち下さい。

(会 長 杉崎護
資金担当 小畑仁)

銀行振り込みご利用の
場合には「三重銀行三重
大学前支店 普通口座

田中晶善 村上昌廣 藤本公三 竹内章朋
松嶋欽一 数本義雄 森岡正 辻野隆房
山田哲也 加藤 晃 鈴木 潔 辻 藤 吾
岩田 章 山口清慈 服部 亨 手塚和十
嶋林幸英 杉本仁彦 平田忠史 中村弘史
藤田 弘 西澤寅夫 平田忠司 山田鍾美
吉田誠之 深谷広成 山口昌宏 伊藤泰光
嶋原章郎 松野遷次 小出章夫 大橋藤五郎
嶋原 利一 石原 暁 小島晨紀 亀山幸輝
清水 映 山口雅巳 小島 敏 稲川清実
福田 巖 加藤 博 伊藤 勇 庄山正敏
坂野三鶴 加藤 康夫 梅田紀彦 鈴木和義
内藤重 田 弘 春日 茂 長島貞武

二口以上お振込みいた

鳴林幸英先生 瑞宝中綬章に輝く



鳴林幸英先生は平成二六年度秋の叙勲で、めでたく瑞宝中綬章を受章され、この慶事をお祝いするため、平成二七年四月一八日(土)にホテルグリーンパーク津において受章記念祝賀会が開催されました。当日は、先生にお教えいただいた生物化学研究室出身者、担任していただいた者(大23回)に加えて、恩師、同僚、三翠化学会や硬式野球部の特別関係の深い方々の総勢八〇名が集まり、盛大かつ和やかな会となりました。

輝く勲章姿の先生と奥様を盛大な拍手でお迎えした後、鳴林先生の後任教授の田口寛先生から代表祝辞を、つづいて先生の恩師で

も同僚でもある松嶋欽一先生から来賓祝辞をいただきました。田口先生は、健康であることの大切さをお話され、鳴林先生のご健康を考慮して、自ら開発した健康関連の商品を解説付きでプレゼントされました。乾杯のご発声をお願いした杉本氏(大6回)の言葉をお借りすれば「田口商店」全開で、盛りだくさんのスピーチをいただきました。松嶋先生は、教鞭を取られていた頃のお話など、ドイツ語も飛び出し、まるで講義を受けているようで、田口先生を上回る延々三〇分におよぶ熱弁を奮われました。お二人合わせて五〇分以上と、その後の進行予定の変更を余儀なくされた司会者泣かせではありましたが、松嶋節、田口節が健在の、力こもったご祝辞をいただきました。

次いで鳴林先生から授章

三翠化学会

会長就任のご挨拶

杉崎 護 (大16回)

昨年、九月一三日の平成二六年度総会において、役員改選が行われ、小畑仁会長に替わり、会長に選出されました。浅学非才の身にその任に非ずと自覚していますが、お引き受けしました以上は、微力ではありますが出来る限り努力したいと考えています。どうかよろしくお願ひ申し上げます。

三翠化学会の現状を、私なりに一言で申し上げますと、昭和四八年一二月の同窓会創設以来、同窓会活動

の中心を占めてこられた先輩諸兄が亡くなられたり、高齢化されたり、また、十余年も同窓会に新しい卒業生の入会がない状況が続く等同窓会の活動力が次第に低下してきているのが実態です。

このような現状を踏まえ、同窓会活動の再活性化、財政逼迫状況の改善など小畑会長時代からの活動方針を引き継ぐと共に、今後はさらに、学部改組に伴い、新しい卒業生の入会体制の準備、同窓会と学部・学生



式のご様子や三重大学時代を振り返ってのお話と、お礼、奥様の謝意など、心温まる想い出深いお話をいただきました。さらに、先生からは、特注の菊の御紋入りの記念品と菓子全員にいただきました。

杉本氏の機知に富む音頭で乾杯し、祝宴に入りました。鳴林先生自ら各テーブルを回られ、皆、それぞれの思いを直接お伝えすることができ、感激に浸りました。歓談の中、友人代表で長谷川氏(専一回)、同僚



代表で前田先生(専二回)、野球部代表で目加田氏(農科II回)、研究室代表で名和氏(大15回)、担任クラ

ス代表で飯田氏(大23回)、女性代表で小川氏(大30回)にスピーチをいただき、思い出に浸るひとときを共に過ごすことができました。皆からの感謝として、お祝い金と花束を判家さん(大36回)、鈴木さん(大40回)から贈呈していただきました。鳴林先生ご自身が、奥様の手を取られ、掲げられ感謝の意を示されたシーンでは先生のお人柄が垣間見え、名残惜しくも楽しい時は一刻と過ぎ、最後に三翠化学会歴代会長を代表して福田様に先生ご夫妻のご健勝を願い、「一発」で中締めをしていただき、鳴林先生のおかがで旧交を温めることができましたひとときが開きとなりました。

研究科長・学部長就任のご挨拶

生物資源学研究科長・生物資源学学部長 梅川逸人

本年四月より研究科長・学部長を拝命しております梅川逸人(うめかわはやと)でございます。どうかよろしくお願ひいたします。

私は昭和五六年三月に三重大学大学院農学研究科修士課程農芸化学専攻を修了(修士第14回)、次いで医学部研究科博士課程を修了(修士第14回)、再び旧農芸化学の研究室の助手として着任いたしました。生物資源学部が誕生した半年後のことでした。当時の栄養化学研究室の教授は高橋孝雄先生、助教は古市幸生先生で

このたび、農学部農芸化学科卒業生の野村勝重様から多大なご寄附をいただきました。二月十二日(木)に内田学長より感謝状を贈呈いたしました。

贈呈式後に学内を廻られた野村様は、ご卒業された昭和三〇年時からの

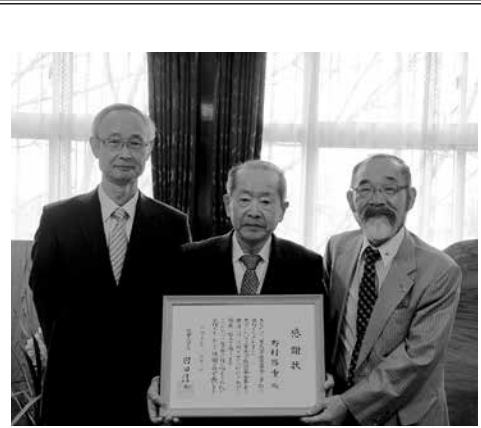
ご寄附に対し感謝状を贈呈しました

このたび、農学部農芸化学科卒業生の野村勝重様から多大なご寄附をいただきました。二月十二日(木)に内田学長より感謝状を贈呈いたしました。

贈呈式後に学内を廻られた野村様は、ご卒業された昭和三〇年時からの

野村勝重様、ありがとうございます。

今回のご寄附は、本学の教育・研究のために有効に活用させていただきます。野村勝重様、ありがとうございます。



内田学長、田中理事(統括・教育担当)とともに、中央が野村様(大3回)

との交流の推進等にも色々と検討を進めて行かねばならず、課題は山積しています。

副会長の木村さん(大25回)、勝崎先生(大36回)、本部役員の方々の協力をいただくと共に、関東、関西、東海支部長の助言もいただき、三翠化学会の運営を推進していきたいと考えています。

どうか同窓会諸氏の暖かいご指導、ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

その後、平成一二年度の学科改組により、農芸化学コースの各研究室は資源循環学科と生物圏生命科学科の二つの学科に分かれてしまいました。しかしながら、昨年度の同窓会新聞(第六三号)でも予告がございましたが、本年四月に専門分野の再編成により、再び旧農芸化学の研究室のほとんどが生物圏生命科学科の生命機能化学講座に集結することになりました。農芸化学の再集結と自身の研究科長・学部長就任が同時というのも何かの縁を感じます。ただ、学生につきましては、新体制は学部と大学院の一年生だけで、あと

の学生は旧体制のままです。しばらくは二種類のカリキュラムが存在することになり、すべて新しい体制に変わるのには三年半後になります。

一方、研究分野の異動に伴い、学部教育は講座制からコース制になりました。現生物圏生命科学科の一年生は、二年生になるときに「応用生命化学」か「海洋生物科学」に配属されます。応用生命化学コースに配属された学生は、その半年後に生命機能化学プログラムかマリンバイオテクノロジープログラムを選択することになります。この生命機能化学プログラムが旧農芸化学コースに相当します。ちなみに、資源循環学科と共生環境学科にもそれぞれ二つのコースとその中の複数のプログラムが設けられております。なかなか簡単にはご説明できませんので、詳しくは学部ホームページをご覧ください。

ところで、平成十六年度に法人化された各国立大学は、平成二八年度から三三年度までの第三期中期目標期間において、①「地域に貢献し、強み・特色のある分野で世界をリードする大学」、②「強み・特色のある分野で地域というより世界をリードする大学」、③「卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で

今、私は

秋田総理 (大50回)



私は柏村直樹先生、西川司朗先生、稲垣稜先生の生理活性化学研究室にて、卒業論文研究及び修士論文研究の三年間、フーゼリとポ多糖の相互作用の研究を行なっていました。この三年間で教えて頂いた知識や技術は、現在の自分の礎になっています。先生方への場をかりて厚く感謝を申し上げます。

修士修了後は、大阪大学蛋白質研究所に移り結晶学を学び、学位取得後は中央農業総合研究所を経て、二〇一二年から岡山大学に移り、二〇一四年から任期満了を迎えました。

卓越した教育研究、社会実装を推進する大学」の何れかを選択し、機能強化を図るよう文科省から求められました。今まで国立大学は同じ土俵で評価されてきましたが、これからは三つの類型の中で評価されることになりました。

この三つのうち三重大学は①を選択しました。また、新聞紙上にも掲載されましたので、ご存じの方も多かと思いますが、最近文科省から全国の国立大学に対して人文社会科学や教員養成の学部の規模縮小が提案されました。これは先述の全国的な教育研究を推進する大学、③卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で

無しの助教に移行しました。現在は岡山大学の沈教授のもとで光化学系II(P S II)の結晶構造解析を行なっています。

P S IIは光合成において、光エネルギーを利用して水を水素イオン、電子、酸素に分解する反応を担っており、その構造を解明するために世界中で激しい競争が行われてきました。我々はX線自由電子レーザー(X F E L)実験施設・S A C L Aを用いて、P S IIの無損傷高分解能X線結晶構造解析を行いました。X F E Lの数ナノメートルという極めて短い時間のX線パルスを利用することで、X線による損傷の無いデータが得られます。

これはX線のダメージを受けやすいP S IIに最適であると考えていました。様々な問題が浮上しましたが、様々な問題が浮上しました。

最後に、三翠化学の近況報告ページに寄稿する機会を与えて頂きました事に心より感謝を申し上げます。

した。レーザーが強すぎてビームストッパーに穴が開いたり、結晶が砕け散ったり、結晶の同型性が無い等です。その都度装置を改良したり、結晶化条件を変更したり、この実験のためにおよそ一〇〇〇個の結晶を用意してデータを積み重ねました。

そして最後に、水分解・酸素発生反応の開始状態であるSi状態の構造を正確に解析しました。この成果は二〇一五年一月一日に出版されたNature誌に掲載されました。現在は酸素発生反応の中間体を捉えようとして日夜研究に励んでいます。

最後に、三翠化学の近況報告ページに寄稿する機会を与えて頂きました事に心より感謝を申し上げます。

第一七回三翠化学会
関西支部交流会のご案内

日時 平成二七年一月十四日(土)
午前二時から
場所 ホテルクライトン 新大阪

談話会特別講師(予定)
「学部の現状、生命機能化学講座の誕生」
三重大学生物資源学学部長 教授 菊田修一氏(大30回)

「薬は世に連れ、世は薬に連れ」
……(研究開発の失敗談など)
内田勝啓氏(大15回)

最新の知見に触れ、三翠化学の同窓生と楽しく語り合う絶好の機会です。同級生をお誘いあわせの上、是非ご参加ください。

(院14回)

第一三回三翠化学会関東支部総会報告 設立四〇周年、元健児二九名が参加、大いに盛り上がる

関東支部支部長 吉田吉明

第一三回三翠化学会関東支部総会が二月二日(土)一時から、江戸川区船堀の朝日信用金庫船堀センター内のコラボ産学官プラザ五〇二号セミナー室で開催され、二九名が出席しました。

三翠化学会が昭和四八年、関東支部が翌年の昭和四九年に設立されたことで、今年が関東支部設立四〇周年、活動再開一〇周年に当たり、記念の年の総会ということになります。

開会に先立ち、浅井副支部長から、参加状況の報告がありました。今回は一六七名に案内、内メールでの案内は九七名、葉書が七〇名、回収率は前者が六二%、後者が五五%、また参加者二九名中メールで回答された方が二八名であり、メールでの案内が効果的であることが報告されました。

次いで、平田副支部長(大20回)の司会進行のもと、吉田関東支部長(大18回)の挨拶の後、杉崎三翠化学会新会長(大16回)から来賓の挨拶と併せて、今年四月以降の大学の生物資源学部の改組について説明がありました。以前の組織に近くなったようですが、改組されても三翠化学会との関連付けについては難しい課題が残されていることが報告されました。

引き続き総会に入り、東海副支部長(大19回)を議長に選出し議案の審議を行いました。第一号議案は、平成二五

年二月三日(平成二六年二月二〇日)の支部活動報告で、吉田支部長から行いました。第一二回総会(平成二三年二月三日・二四名参加)、第五回交流会・懇親会(平成二四年二月二二日・二七名参加)、関東支部第二回ゴルフ大会(平成二五年六月五日、取手桜が丘ゴルフクラブ)、第三回ゴルフ大会(平成二六年六月四日、利根パークゴルフ場)を実施し、これらの内容は機関誌「三翠化学」とホームページに随時投稿したこと、更に今期一〇回開催した支部委員会の活動の概要を報告しました。

定であり、多くの方の参加をお願ひしました。引き続き、大学15回の小島楯彦氏から、「私の桜巡り」名桜古木を訪ねて」と題し、講演会が開催されました。日本の桜の起源から始まり、桜と日本人、日本の文化、稲作との係り、桜の種類、そして四〇〇年以上の古木の一覧表を紹介し、桜の名木一〇〇選、小島さんが訪れた二〇〇カ所以上の桜の写真やスライドで紹介していただきました。併せて、訪れた先の花咲く桜の写真と略歴と感想を綴られた「桜巡り紀行記」六冊も回覧しました。最後に、見て良かった桜、今後訪れてみたい桜についての小島さんの所感を披露していただきました。

次いで第二号議案の会計報告、会計監査報告、第三号議案の任期満了に伴う役員改選が審議され何れも了承されました。役員として、支部長に吉田吉明(大18回)、副支部長に東海裕作(大19回)、浅井美文(大19回)、平田友良(大20回)、田中俊一(大20回)、中島亨(大22回)、飯田徹也(大23回)、監事に藤川誠一(大20回)の各氏が再任されました。

大学6回 クラス会

6回生(昭和33年卒業)は平成23年以来、毎年クラス会を開催してきました。今年も平成26年11月9日 静岡県・寸又峡温泉で開催しました。今年の出席者は11名(卒業生29名、物故者8名)でした。初日の9日は東海道線・金谷駅に集合し昔懐かしいSL列車とバスを乗り継いで現地に午後2時頃到着しましたが、雨のため外出はせず懇親会まで学生時代の思い出や近況等を話して過ごしました。懇親会後は再び一室に集まり夜遅くまで歓談しました。寸又峡温泉といえば、ある年齢以上の方には監禁事件を思い起こされるかと思いますが、大自然に囲まれた鄙びた静かな所でした。近くにはダムや吊り橋の景勝スポットがあり、見どころ満載です。

翌10日は快晴に恵まれ近くの景勝スポットを散策した後、バスで千頭駅まで行き、ついで大井川鉄道井川線の日本で唯一のアプト式電車で接岨峡温泉まで行きました。その先は昨今の大雨で一部不通になっており、予定のルートでの旅行が出来なかったのは残念でした。しかし車内より見た大井川沿いの樹々の紅葉、そしてダムや鉄橋の雄大さを満喫しました。同地で昼食後再びアプト式電車で帰途に着き、金谷駅にて来年の再会を約して散会しました。最後に今年のクラス会の開催に尽力してくれた加納氏に感謝の意を表します。



出席者：伊藤、加納、川内、杉本、豊田、西沢、服部(英)、深谷、藤本、松尾、吉野の各氏。(吉野)

農芸化学科(大36回)クラス会の報告

平成26年8月16日に津新町の居酒屋車力で行いました。昨年、志摩で行われた合同クラス会へ参加できなかった人たちが、志摩での話などから楽しそうだからクラス会を今年も行おうということで企画されました。今回は大学へ集合し、その後、大学から店の送迎バスで津新町の車力にいきました。担任の小畑先生にも参加していただき、昨年に続きよくあうメンバーもいれば、久々に集まるメンバーもあり、最近の近況から昔話まで花に花がさきました。また、お盆ということもあり帰省ついでに、遠方からの出席も有りました。2時間ほどの時間ですが楽しい時間を過ごすことができました。

出席者は小畑先生、高須(伊藤)朝美、伊藤龍生、勝崎裕隆、曾我元、橋本(谷口)聖美、林栄一、前田祥貴、吉田明弘、若山秀人(勝崎裕隆)

クラス会だより(大42回、院29回)

サッカーW杯イヤーであった2014年、梅雨の合間の快晴の空の下、6月28日から一泊二日、静岡県浜名湖ロイヤルホテルにて、第二回クラス会を開催しました。本来の幹事であるはずのN村T君が、大学卒業後20年という節目であるにもかかわらず動く気配がないので、静岡県内在住の卯川氏と私で相談し、敢行することにしました。参加資格者44人中11名(女3、男8)、東は神奈川県から西は香川県まで、40代前半でみんな忙しいなか、よく集まっていただきました。見た目が大きく変わる年頃ですが、久しぶりの再会にもかかわらず、一応誰かの判断はつききました(写真参照)。また近況報告では、仕事や健康の話など、我々年代ならではの会話が盛り上がり、そのままホテル内にあるカラオケ室に移動となりました。ここでは、高校生のお母さんもまだ小さい赤ちゃんのお父さんも学生時代に、懐メロのオンパレードではじけました。次の朝は二日酔いの人を除き、朝食バイキングを堪能しました。その後、浜名湖畔の「うなぎパイファクトリー」を見学し、工場見学には必須の無料うなぎパイサンプルをきっちり確保しました。名残り惜しくもありましたが、その場で解散となりました。



参加者で話し合った結果、今後のクラス会も当面4年に一度、W杯イヤーを目安に開催しようということになりました。次回ロシアW杯の年には三重大学の西尾氏が幹事となって開催される予定です。今回見えなかった人たちに会えることを楽しみにしています。(佐野秀人)

関東支部会第四回ゴルフ大会を開催

優勝は大学18回の吉田吉明氏、二度目



した。そのため、名古屋支部から鋤柄修さん、関西支部から高木饒さんに参加いただき、関東支部からは亀山幸輝さん、近藤三郎さんが参加し、大12回から大23回の方一名三組の大会となりました。本コースはJR常磐線藤代駅に近い(車で五分)名門コースで、フラットなコースですが、池、クリーク、バンカーが随所に配置されており、嵌まると大たたきするコースです。当日は絶好の天気恵まれ、フェアウェイにカート乗入れが可能で、高齢者にとっては有難い恵まれた快

関東支部第四回ゴルフ大会を平成二七年五月二七日(水)、取手桜が丘ゴルフクラブ(茨城県)で開催しました。今大会は、大学12回の方が東西交互に定例会を開催しており、今年がリニューアルに併せて設定しま

した。そのため、名古屋支部から鋤柄修さん、関西支部から高木饒さんに参加いただき、関東支部からは亀山幸輝さん、近藤三郎さんが参加し、大12回から大23回の方一名三組の大会となりました。本コースはJR常磐線藤代駅に近い(車で五分)名門コースで、フラットなコースですが、池、クリーク、バンカーが随所に配置されており、嵌まると大たたきするコースです。当日は絶好の天気恵まれ、フェアウェイにカート乗入れが可能で、高齢者にとっては有難い恵まれた快

